

# ゆうゆうプラザフェスティバル まとめ

## 成 果

- 1 実施のゆうゆう同士で細やかな計画を立て、各ゆうゆうの分担を上手く伝えられた。  
その成果として当日はスムーズに進み、式典が早く終わることが出来た。実施委員間の親睦が深まり、絆も生まれた。
- 2 各ゆうゆうの実施委員・サポーター・高校生ボランティアのご協力があり、円滑に行うことが出来た。
- 3 ドッチビーで対戦するグループを両校混合で編成したので、子供たちの交流が十分に図れた。
- 4 太東学園では新しい試みとして、県立久喜工業高校に全面的に協力をいただき、6ブロックに分かれた活動はどの会場も熱気に満ちていた。ものづくりの楽しさを親子で体感し、制作物はどれもこれも珍しく、子供たちの心を惹きつけた。
- 5 3つの地区でポッチャ大会を行い、競技では久喜市ポッチャ協会のご指導のもと、小学生のみならず、幼児、保護者や地域の方々、さらに実施委員や来賓も競技を楽しみ親睦が図れた。子供たちからは「初めてだったけど楽しかったよ」という声もあった。  
ポッチャが幅広い年齢層から支持を受け、このフェスティバルをきっかけに今後、各ゆうゆうでポッチャの講座が普及するものと思われる。
- 6 菖蒲地区では、児童や保護者、地域の方々が総計277名参加し、最も多かった。講座も8講座を実施し、5校の子供たちや実施委員、保護者、地域の方々の交流が深まった。
- 7 ゆうゆうプラザで設立から普及、発展に永年ご尽力いただいた方への「功労者」表彰を各会場で行い、合計21名の方々を表彰した。児童、保護者、実施委員、地域の方々の前で表彰式を行い、地域のゆうゆうへの理解が増し、後継者育成につながった。
- 8 今回は全ゆうゆうが一堂に集まるのではなく、地域で関係の深い身近なゆうゆうが集まって各地区でフェスティバルを実施したため、交流や情報交換が十分にでき、この内容が各プラザに活かされ、地域のコミュニティづくりの進展と活性化につながった。併せて地域づくり、学校づくりにも大いに寄与できた。
- 9 総参加人数が1,060名と、当初の目標1,000名を超えて、各会場とも盛況の中でフェスティバルが展開された。

## 課 題

- 1 当日に、体調不良の児童や保護者、急なご家庭の予定によるキャンセルなどが相次ぎ、当初の参加児童数からだいぶ減ってしまった地区もあった。
- 2 ゆうゆう間の打合せ不足がみられた地区もあった。(実施委員長だけで打合せを重ねたため、実施委員同士のコミュニケーションが不足した。)
- 3 「継承の中の創造」。学校や公共施設等を拠点とし、地域の次世代を担う子供たちを育てていくゆうゆうプラザ。活動は一過性のものではなく、実施委員やサポーター・保護者・地域住民・先生方が継続することが重要です。ゆうゆう同士で学び合い交流し合うフェスティバル活動を含めて、継承していく中で創造力を発揮し、子供も大人も楽しみましょう。